

『点 検』

1 2 自己点検・自己評価

基準 1 2 - 1

上記の諸評価基準項目に対して自ら点検・評価し、その結果を公表するとともに、教育・研究活動の改善等に活用していること。

【観点 1 2-1-1】自己点検及び評価を行うに当たって、その趣旨に則した適切な項目が設定されていること。

【観点 1 2-1-2】自己点検・評価を行う組織が設置されていること。

【観点 1 2-1-3】自己点検・評価を行う組織には、外部委員が含まれていることが望ましい。

[現状]

1991年に大学設置基準が改正され、大学がそれぞれの目的を定め、その目的にしたがって社会的使命を達成するために、大学自らが恒常的に現状を点検・評価し、問題意識をもって将来に向けた改善・改革を常に推し進めることが制度のうえで求められるようになった。このため京都薬科大学においては、1992年8月に教員を中心とする京都薬科大学自己点検・評価運営委員会を設置し、1993年度を基準とする過去5年間の教学の実態と推移をまとめた「教育・研究の現状と課題 平成5年(1993)」を公刊した。その後、引き続き年次報告として「同 平成6年(1994)」および「同 平成7年(1995)」「同 平成8年(1996)」を公刊した。1999年度には、1993年5月から1998年5月の5年間にわたる全学的な自己点検・評価を実施し、大学基準協会が実施する相互評価に申し込んだ。その結果、1999年3月18日付で、本学は「大学基準」に適合する認定大学の評価を得ることができた。相互評価の際に大学基準協会から受けた助言・勧告および自己点検での改善改革の方策の実施状況を確認するため、2001年8月に外部の専門委員の第三者評価を受けた。その結果、2002年9月11日に「京都薬科大学における薬学の教育研究は本邦の薬系大学をリードする非常に優れたレベルにあると評価される。」との全体評価を得た。

2008年に大学基準協会の大学評価を受けるべく、2007年2月に自己点検・評価運営委員会を再編制し、2003年度から2007年度の5年間にわたる自己点検・評価を実施し、2008年4月に大学基準協会に自己点検・評価書を提出した。その結果、2009年3月に大学基準協会の大学基準に適合していることが認められた。

大学基準協会の大学評価終了後も引き続き自己点検・評価運営委員会を組織している。自己点検・評価委員会には教授を中心とした多くの教員、事務部門の各課長が委員として参加している。自己評価21の実施にあたっては、自己点検・評価運営委員会をベースとした委員会「自己評価21委員会」を組織し、自己点検・評価にあたっている。

[点検・評価]

本学が自己点検・評価を行う際には大学基準協会の評価基準および自己評価 2 1 の評価基準を基に自己点検・評価を行っており、点検・評価の趣旨に沿った適切な評価基準を基にして自己点検・評価が行われている。

自己点検・評価を行う組織は恒常的に設置されているが、外部委員は含まれていない。

また、改善計画についてのタイムスケジュール、推進責任者が明確でない。

[改善計画]

自己点検・評価を行うために必要な組織を整備し、適切な評価基準に沿って評価が行われているが、自己点検・評価運営委員会に外部委員が含まれていないことが問題である。自己点検・評価を行う際に内部の職員だけでは気付きにくい問題点を洗い出し改善するためにも、来る本評価実施の際には外部委員を加え自己点検・評価を実施することとしたい。

また、改善計画については、推進責任者を決め、いつまでにどのように改善するかアクションプランを作成して、改善を実行したい。